

松阪牛

かわら版
15号

第六十二回松阪肉牛共進会

優秀賞1席 きくはる号

畑 敬四郎さん(多気町前村)



松阪牛のことしの「女王」を決める品評会、松阪肉牛共進会が十一月二十七日、松阪市伊勢寺町の松阪農業公園ベルファームで開かれました。審査の結果、畑敬四郎さん(多気町前村)が育てた、きくはる号が最高賞の優秀賞一席に選ばれました。

審査に続いて開かれた競りでは、きくはる号が、この日の最高価格、二十万円で津市の朝日屋さんに落札されました。畑さんの最優秀一席は二度目。畑さんは「子牛のときからおとなしく、育てやすかった。非常にうれしい」と、喜びをかみ締めていました。

ベルファームでは共進会に合わせて「松阪牛まつり」が開催され、4万人の人出でにぎわいました。共進会の様子もたくさんの人が見守りました。



匠をたずねて 3

このコーナーでは「松阪牛のふるさと」といわれる飯南町で、古くから松阪牛の肥育に力を注いでいる人たちを連載で紹介しています。

「牛が元気かどうかは、耳で聞いて確かめる」一。これまで何頭もの名牛を育て上げた宇助さんは、1日に数回、必ず牛の健康状態を確かめたといいます。

餌の食べ具合や排泄物を確認。牛の角を触って体温を確かめるのもそのひとつ。

夜間、真っ暗闇の中では、小屋の入り口に立ち、牛の寝息に耳をそばだてれば、牛の少しの変化も見逃すことはないといいます。

森本 宇助さん (88) 松阪市飯南町深野 (その3)



宇助さんが名牛を育て上げた秘訣のひとつは、澄んだ空気とこんこんと流れる湧き水。

谷からの湧き水は1年中絶えることがなく、牛たちには欠かせないものとなっています。

もうひとつ欠かせないのは、自家製の稲わら。田んぼで刈り取った稲からつくった良質なわらはは、牛舎の2階に蓄えておき、ふすまや麦などと配合し、牛たちのえさになっています。

つづく

信頼の証です 松阪牛個体識別管理システム

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 Tel.0598(53)4119
平成23年12月 松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください